

**救急 2,410**  
1日平均6・6件

救急件数は、前年から71件減少し2410件でした。  
急病が1499件(全体の約62%)と半数以上を占め、一般負傷は325件(全体の約13%)、交通事故は242件(全体の約10%)でした。ドクターヘリの要請は過去最多の122件でした。  
救急車による搬送人員は2255人で、そのうち約65%は高齢者でした。

**救急講習会 2877人が受講**

市消防本部では、心肺蘇生法やAEDの取り扱い、けがの手当てなど、応急手当の習得を目的とした救急講習会を開催しています。  
昨年は、過去最多となる114回開催し、延べ2877人に受講していただきました。また、過去10年間の受講者数は延べ23000人を超え、これは市民の40%以上が救急講習会を受講したことになります。  
いざというときに備えて、あなたも応急手当を学んでみませんか。詳しくは、峰山消防署救急係(☎62-0119番)までお問い合わせください。



▲市内の事業所で開催した救急講習会の様子

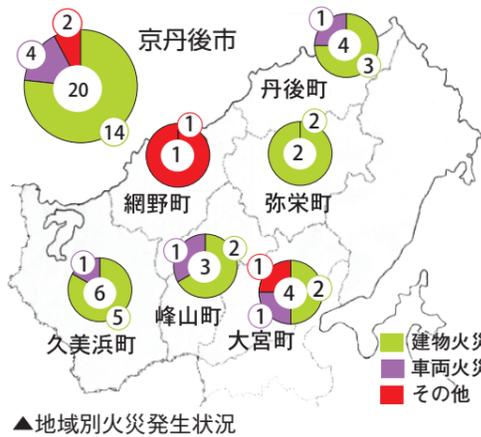
## 統計で見る京丹後の実態

平成26年中の市内の火災発生状況や、救急救助活動など、消防・防災に関する各種の統計調査結果をお知らせします。

**「火災や災害による被災者をなくすまちづくりをめざして」**

新年早々に市内で建物火災が続き、大変な年明けとなりました。昨年本市においては大きな災害はなかったものの、残念なことに火災で3人の方が亡くなられました。  
平成23年から住宅火災での逃げ遅れをなくすため「住宅用火災警報器」の設置が義務付けられましたが、まだまだ設置されていない住宅があります。設置されていない住宅には早急に設置をしていただき、火災による死者、負傷者をなくし、「安心・安全」に暮らせるまちづくりのため、職員一同も努力してまいりますので、市民の皆さんのご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

消防長 河野 秀



**火災により死者3人**

平成26年中の火災件数は、前年と同数の20件で、その内訳は、建物火災が14件、車両火災が4件、その他の火災が2件でした。  
火災による死者は3人、負傷者は2人でした。  
建物火災の出火原因を見ると、「こんろ」、「電気配線」、「落雷」など多種に上りました。

# 消防の広場

## 119

火事・救急・救助

ついでですか  
**住宅用火災警報器**  
月に一度は作動点検



▲本年2月に運用開始した高機能消防指令システム

**通信 3,525**  
目的外の通報が25%

119番の受信件数は、前年から41件増加し3525件でした。このうち、いたずらや問い合わせなど、目的外の通報が885件(全体の約25%)ありました。  
119番は緊急通報用の電話回線です。回線には限りがあり、火災や救急の緊急通報が受信できなくなることも予想されますので、いたずらはもちろんのこと、問い合わせなどにも絶対に使用しないでください。

**必ず火災警報器を設置しましょう**

住宅用火災警報器(以下「火災警報器」という。)の設置が義務付けられた平成23年以降、市内で発生した88件の火災のうち、36件が住宅火災です。  
住宅火災の発生状況を見ると、36件のうち23件が火災警報器の未設置住宅でした。また、設置済み住宅からは死者が出ないのに対し、未設置住宅からは3人の死者が発生しています。この結果から、火災は未設置住宅からより高い率で発生し、設置済み住宅に比べて人的被害も大きいことが分かります。  
住宅火災から大切な命や財産を守るためには、火災警報器の設置、維持管理は不可欠です。火災による犠牲者「ゼロ」の実現のために、住宅には火災警報器を設置しましょう。

住宅火災における火災警報器の設置状況および死者の発生状況(H23年~H26年)

警報器設置	住宅火災	死者
あり	13件	0人
なし	23件	3人

**救急メモ**

**苦痛を軽減する姿勢**

皆さんは呼吸や胸が苦しいとき、腹痛のとき、姿勢によって苦痛が軽減されることをご存知ですか。  
まずは呼吸や胸が苦しいときに有効な姿勢です。上半身を起こして、少し前屈みに座った姿勢をとります。上半身を起こすことで呼吸がしやすくなり、仰向けで寝ているときより呼吸が楽になります。これを**起坐位**といいます。

次に腹痛を軽減するのに有効な姿勢です。仰向けに寝た状態で、膝を立てた姿勢をとります。膝を立てることで腹部の緊張がとれて、痛みを和らげることが出来ます。これを**膝屈曲位**といいます。

このように、姿勢によって苦痛を軽減することができます。しかし、一番楽な姿勢は苦しんでいる本人がもっともよく分かっています。できるだけ本人の希望する姿勢がとれるように手伝ってあげましょう。

市消防本部救急救命士 後藤 真哉



▲交通事故を想定した救助訓練

**救助 45**  
交通事故が60%

救助出動件数は、前年から10件増加し45件でした。交通事故による出動が27件(全体の60%)と半数以上を占め、水難事故は5件、その他の出動は13件でした。  
死者は5人で、交通事故によるものが2人、水難事故によるものが3人でした。  
交通事故による出動が増えていきます。交通ルールを守り事故を未然に防ぎましょう。